

エゾシカワーキンググループの経過報告・今後の予定

1. 令和 5 年度（2023 年度）エゾシカ WG の開催概要

- ・第 1 回会議 令和 5 年（2023 年）6 月 19 日（月）斜里町産業会館

2. 主な議事内容

新たに 2 名の委員を WG にお迎えしたほか、令和 5 年度の実行計画案に関して、特に確認個体数が増加している知床岬地区での対策方針を中心に議論されました。主な意見・指摘事項は以下のとおりです。

■2023（令和 5）シカ年度実行計画案について

- ・昨年度行われた航空カウント調査において、知床岬地区の確認頭数が引き続き高止まり※したことを受けて、この数年は十分な捕獲成果が上げられていない現状に照らし、大規模仕切柵の設置など試行的な捕獲手法についてはより具体的な実現可能性も検討しつつ、可能な限り捕獲を継続する。
※2020 シカ年度：58.2 頭/km²、2021 シカ年度：78.64 頭/km²、2022 シカ年度：63.47 頭/km²
- ・幌別－岩尾別地区並びにルサー相泊地区については、捕獲が順調に進んでいるため、より持続的な手法を検討しつつ、当面は知床岬により重点を置く。

■知床世界自然遺産地域管理計画の見直し検討について

【全般】

- ・「保全管理」と「保護管理」が混在しているため、整理すること。

【3.知床世界自然遺産の価値】

- ・遺産のクライテリアだけではなく、人間との関わりにより遺産価値が維持されてきたことや自然景観なども含めて、記述が必要ではないか。

■第 2 期長期モニタリング計画に基づく総合評価手法について

- ・各評価項目に紐付けられたモニタリング項目の評価基準について妥当かどうかを再チェックしておくこと。

■気候変動に対する順応的管理戦略について

- ・順応的管理など、ポイントとなる言葉は使い方（意味）を統一しておくこと。
- ・こういった方策をどんな時に備えて用意するかということを戦略的に考える必要がある。それを次回保全状況報告（2024 年 12 月）までに完成させるのは困難であり、まずは一次案を提出した上で、引き続き検討しながら完成に近づけていくのではないか。
- ・気候変動に対するインパクトのシナリオを検討することが重要である。各 WG/AP での確認を得つつシナリオを作成し、そのシナリオに沿ったリスク評価が行える観測・モニタリングの対応付けを検討する。その上で、どの部分是对処可能で、どの部分是不可能なのかを明らかにしていく。
- ・気候変動の影響は生態系ごとに違うため、知床のローカルモデルをつくる必要があるが、知床での気象観測の歴史は浅いため、知床半島での気象庁の既存データ等を活用し、解析に用いることが考えられる。

3. 令和 5 年度（2023 年度）エゾシカ WG に関する今後の予定

◆第 2 回エゾシカ WG

令和 5 年（2023 年）11 月～12 月（予定）

以上